

2003年(平成15年)4月28日発行

米山梅吉記念館 館報

THE YONEYAMA UMEKICHI MEMORIAL HALL REPORT

2003
創刊号
春
vol.1



特集

ビチャイ・ラタクルRI会長 公式訪問



財団法人 米山梅吉記念館

創刊のことば

「米山梅吉記念館報」発刊と ビチャイ・ラタクルRI会長公式訪問成功を祝つて

(財)米山梅吉記念館は1969年(昭44)創立、1998年(平10)新館建設、以降地区及び諸先輩、なつかしく飯正謹賛クラブの御協力により全国的な組織に拡大、多くの御来館クラブを経て今に至っております。又、国際的な認知もいただき2002年11月にはビチャイRI会長の公式訪問を受け、ロータリー優章掲示も認められました。又、昨年は台湾「扶輪の友」委員会御一行の規賛交流も頂き、近隣アジア地区資金、神奈川2地区、米山記念奨学会、賛助会員、全国のロータリアンの賛賛金及び地区資金、米山記念奨学会、米山記念奨学会、賛助会員、全国のロータリアンの賛賛金によって構成されています。

そのような中で心にかけながら最も欠けていたことは情報、広報の不足でした。御協力いただいたいる全国のロータリアンの皆様に館の現状、御意見の通り、提金のお札等、真っ先になすべきことを踏まえ、予算不足等の理由はあるにせよ怠ったことはお詫びすべきこととしました。

館には以前「藍葉」という機関誌がありましたが、その後中断しております。今日はその復刊の意も体しながらも心懐一軒、全く新しい見地から館の広報誌としての役目を果たすべく「米山梅吉記念館報」を創刊することになりました。

この広報は

1. 創行事 (例祭ほか) 等の報告
2. 展示品の紹介及び解説
3. 館資金、会計の報告 (寄付者、入金)
4. 米山梅吉研究
5. 個寄稿
6. 文芸欄 (随筆、短歌、俳句、詩ほか)
7. 館からの備案内
8. その他

等を主目的にして編集して参りたいと思います。
われわれは既にロータリーの友、米山記念奨学会便りなど多くの情報誌をもっておりますが、それらの語彙とも連絡をとりながら館情報誌として役目を果たして参りたいと存じます。



財團法人米山梅吉記念館
理事長 内藤 成雄

米山梅吉記念館の施設全般と発展を図ることは私が第2620地区の重点施策の一つです。幸い平成10年の新館建設以来、内藤理事長以下執行部、米山梅吉記念館委員会中村委員長以下地区委員の方々によって地区内外、更に海外にまでその活動を広げておられますこと、誠に同慶の至りに存じます。

ことに平成14年11月27日の2002-2003年度のビチャイ・ラタクルRI会長の地区及び公式訪問の歓迎行事の成功は正に画期的、歴史的な盛事と申すべく、その感激の思い出は今も目に焼きついております。この行事の期間に私はガバナーを仰せつかつております。このことも誠に光榮であり、私の生涯のハイライトの一時とさせて頂きましたことを確かなことがあります。心から皆様が一致して成し遂げた成果を讃えながらお礼を申し上げます。

満面笑みを湛えたRI会長の植樹、植樹(金木翠一樹名、慈愛)及び年度テーマを彰りこんだ記念写真、長良の子供たちを感動と愛に包み込んだ交流、叶えられた講演会。ロータリアーは初心にかえろう、奉仕の根源は自らの職業の結果にある、その心で金員を増やそう、やめていく会員を友情でおしとどめよう、今一ふんぱりしてボリオ支援に頑張ろう、など。あの講演は将来にわたって参加したロータリアンの心に永く残ることと想います。すべてを忘れて一つ心になった親睦の輪、歓迎晩餐会のなごやかな一時、ロータリー会員なればこそその充実感、などなど…。万感今も胸に溢れます。

米山梅吉記念館では長い懇案であった情報誌「米山梅吉記念館報」を創刊してくられるそうです。そして創刊特集としてあのビチャイ・ラタクルRI会長の歓迎会を特集として全国に発信して下さるとのこと。誠に時機を得た企画、待ち望んでいた思いの実現を心から喜び、その発刊をお慶び申し上げます。



国際ロータリー第2620地区
2002-2003年度
ガバナー 中野哲男

公式訪問スケジュール

奉仕の人 米山梅吉

米山梅吉は慶応4年(1868)大和高取藩士 和田三造の三男として、東京芝田村町に生まれた。5歳の時、父死亡、母の実家 三島に移り生んだ。幼少よりの英才の譽れ高く、望まれて長崎的旧家米山家の養子となつた。旧沿津中を経て、上京、20歳で源米、若狭力行、オハイオ州ワエスレノ大学に学び22歳で帰国した。

帰国後、三井銀行入行、若くして重役、三井西浜銀行初代社長、三井報業会理事長等、一方社会奉仕活動は大正9年(1920)日本に初めて国際ローダリーの思想を導入、東京ローダリーグラフを創立し初代会長、のち国際ロータリースペシャルコミュニケーションナー、カバナーを歴任、日本ロータリーの父と目がされている。又青山学院に横田小学校、地所梅園を設立等、郷里長岡町に因書館、米山文庫を寄附、生涯を通じ田際奉仕、社会奉仕の道を貫き通した。



- 2002年11月27日(水)
- 公式訪問 12:00~14:00
米山梅吉記念館
 - 記念講演会 14:30~16:00
東レ総合研修センター
 - 歓迎晩餐会 17:00~19:00
みしまプラザホテル



公式訪問特集

CONTENTS

(附)米山梅吉記念館 内藤功雄	2
「米山梅吉記念館報」発刊と日会長公式訪問成功を祝つて 第2520地区ガバナー 中野哲男	3
公式訪問スケジュール	5
米山梅吉記念館 公式訪問 記念講演 東レ総合研修センター	6
歓迎晩餐会 みしまプラザホテル	12
懇親会	18
(附)米山梅吉記念館 概要	23



みしまプラザホテル

東レ総合研修センター

米山梅吉記念館

米山梅吉記念館 概要

米山梅吉記念館 公式訪問

公式訪問歓迎式典

開会の辞

(財)米山梅吉記念館 常務理事 伊藤文平

こんにちは。ビチャイ・ラタクルさんようこそお出かけいただきました。「ボトムアップ」の一言で全日本のロータリアンの心を捕らがしたRI会長がここにおられます。大変な義務の中を2日間この館ならびに地区をお訪ねいただきまして、ありがとうございます。私共は会長のおっしゃるクラブの普通の会員をたくさん集めております。もちろん地区、記念館の幹部の方々。すべて一同に参集いたしましたけれども、特にラタクルさんは、一般この地域の会員にお話していただきたい。と思うと同時に私共手作りですが心から歓迎申上げますので、公式訪問ではありますがあ、プライベートに考えていただき、リラックスしていただいてロータリーを楽しんでいただきたいと思います。

今日は皆さんありがとうございます。

歓迎のことば

(財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄

晴天に恵まれまして、私共が敬愛するRIブレジデントB・ラタクル閣下を当記念館にお迎えする歴史的な日を迎えることができました。会長にはハーフスケジュールで、世界を舞台に御活躍中の時間をおきのためにおとりくださいまして、誠に光榮に存じます。

また感激一人でございます。ようこそお出でくださいました。心から歓迎を申し上げます。



お元気にお見舞に御来



お開きの内藤理事長とご挨拶



中井がナーチカルく



萬士山をナーチカルで、内藤理事長とご挨拶



ご到着を待つ(米山梅吉記念館)



朝ちに待ったご挨拶



お出迎えの皆さんと



お出迎えの皆さんとご挨拶

仰顧行の板橋RI理事ご夫妻及び田中エレクト、そして島津米山美学会理事長、米山梅吉先生のご家族、それから会長の所属いたしましたタイトンブリRCの皆様方、そしてわが地区、全国からお集まりいただきましたPGの皆様方、およびこの地区からお集まりいただきましたPGの皆様方、ようこそお越しくださいました。心から歓迎を申し上げます。

現職のRI会長のご訪問をいただくということは、もちろん当館にどりましてもはじめてのことです。このことは、本日を契機にいたします。当館が国際的な注目の中心でご認識をいただけます。という考え方も浮かびあがつくるわけでござります。この意義は当館にとりまして、限り無く大きいものと考えております。この画期的な行事は、長年タイ国トンブリRCと友好関係にあります我が2620地区的伊豆長岡RCとの長い間の親善の輪の延長線上にあることをご披露申し上げまして、伊豆長岡RCの皆様方も深喜むお札を申し上げます。以上で理事長としての歓迎のご挨拶といたします。ありがとうございます。

重ねてようこそお出でくださいました。ありがとうございます。

ごあいさつ
ビチャイ・ラタクルRI会長

板崎さんをはじめ皆々様、私はここに立つことを非常にうれしく思っています。また、ここに立つことを謹虚にかまえています。といいますのは、私は普通のロータリアンとしてここで立ち、皆さんにお会いしたい、と思っているからです。この素晴らしい日本のローターの場に立てることをうれしく思います。

先より感謝日守事、中野カバナー、内藤理事長



これは、ここ1ヶ月ではなく1年を超える長い間に理事長をはじめ理事の方々がお話し合いをして、このような機会を持つことになった次第であります。とりわけこの場に立ち皆様にお会いできることをうれしく思っております。特にトシリの皆様とここで再会できただることは大変光栄に思っています。こんな経験ができるとは思っていませんでした。彼らは日本人のように見えます。

今年のテーマは「慈愛の種を蒔きましょう」でございます。ここで思い出してください。米山梅吉さんは、ずっと昔に慈愛の種を蒔かれたのです。米山さんは非常に高邁な理想をもつていらして、はるか遠くを見つめていたのです。米山さんは特に教育ということを考えておられて、これは国の将来を担うものであります。最初に米山奨学金をうけられたのはソンチャイさんというタイの方で、1954年に初めて奨学金をうけて東京大学で勉強されました。米山さんは教育を通して相互理解ということを考えていたのです。

ここにロータリーの会長として最初に立ったことを非常にうれしく思います。お招きいただきありがとうございます。

歓迎花束の贈呈



新井社長 沢川赳季副会長



米山の胸元写真
新井社長 沢川赳季副会長

閉会の辞 (財)米山梅吉記念館 理事 乾 幸

私は記念館の理事で92~93年度2620地区のガバナーをやらせていただきました。ビチャヤ・タクル会長には用務ご多端のところ記念館にご訪問いただきました本当に光栄のいたりでございます。私は今年の8月にタイ国のラノーン県へ地球環境再生フォーラムの团长として行き、植林をさせていただきました。その最終日にはバンコクのトシリRCへ向うことができましたが、その折我々58人の歓迎パーティーを聞いてくださいました。本当にトシリのみなさんありがとうございました。また、この後タクルさんには東レの会場で講演をしていただくことになります。みなさんも聞かせていただけるわけでございますので、Sow the Seeds of Loveをしつかり身につけてクラブに、職場に、そして世界にその種を蒔き、それが実ることを誓いまして閉会のことばといたします。



タケミツアミタセンブリRC、スカラボンRCの皆さんと一緒に…



西条 小畠聰平 経営幹事会幹事



通行・日本大学国際関係学部 梅本哲悟(左)

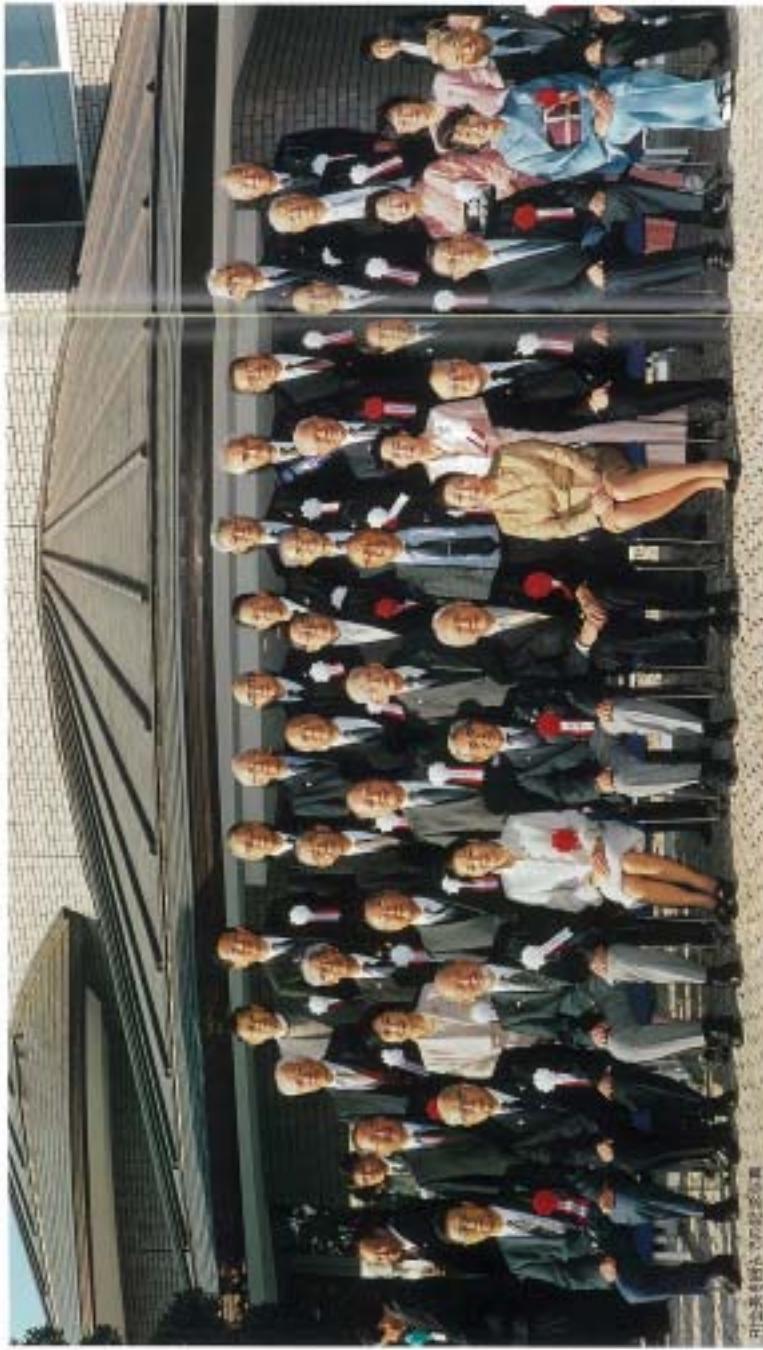




会場にかけ声も最高の子どもたち



紀念碑製作(伊豆長崎市・山口町)



和洋装を身に纏う男女の姿



米山翁の墓前



開池美紹介特別展



会場(記念館・木屋)の様子



懇親会会場の様子



会長と海古先生の顔写真



熱心に展示品をご覧になられる方々

演講記念紀

中野哲男 様

日頃より心から敬愛申し上げていますRI
会長チヤイ・ラタクル様、ようこそ第
22620地区へお越しくださいました。全員
会員として心よりご歓迎を申し上げます。
また、会員のみなさま、ようこそご参加くださ
いました。誠にありがとうございました。

地区始まって以来のビッグイベントでございます。RJ会長ビチャイ・ラタール他は朱山梅吉先生来記念植樹、記念碑の除幕、ここに記念講演をしてくださいとお聞きいたしましたが、大いに感謝してまいります。どうか限られたひとときではございませんが、大いに感謝いたします。

本日に至るまで、数々の御労苦をおかけいたしました内藤記念館理事長はじめ、関係各位のご努力に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

ところで今日一日がみなさんにとりまして悪出稽古あるひとときであること、また出で立たれた会長の情かれれる愛の種が、我が地区に大きく育てる記念の日にご祈念申しあげて簡単ではございませんがどうぞよろしくお願いいたします。



無
卷之二

ビチャイ・ラタクラル会長

A black and white portrait of Gaboriau, a middle-aged man with short, light-colored hair, wearing glasses and a dark suit jacket over a white shirt. He is smiling slightly and looking towards the camera.

に貢献した木山翁の感動をしみじみ感じさせられました。

私は最近、世界をあちこち回っております。今度の旅行もすでに4～5ヶ月月に及んでおります。この前パンコクに戻った折は、わざか3日の滞在に終わっています。私のこれまでの旅は、私の場合、一人ひとりの口

ーダリアンの皆さんにお会いする、すなわち会員の皆様と草の根からの交流をすることをお楽しみしております。よって地域に根付いた活動を実際に行っている皆様に会うことはうれしい限りです。

アジア地域は長いことRI本部の会長を輩出しております。日本人でRI会長職を務めたのは、過去に東ヶ崎謙さんと向井廣次さんの二人がおられます。とりわけ、東ヶ崎さんが語ってくれたことが印象深く、日本に来ると彼のことを見ています。東ヶ崎さんはローダリーについていろいろ語ってくれまして、私にとっていいわば兄のよ

東レ総合研修センター

維持であり、二つ目はボリオの接誠を心がけたい、ということです。新たな会員を得ることはいうまでもありませんが、それ以上に現状の会員を維持してゆかなければならぬということです。数年前、40万人のローテリーの会員がやめるということがありました。それが、現在の会員を維持していくことが大切になるのです。新たにメンバーを増やすということも關しても、会員数だけにとらわれることなく、同時にその質についても考えていきたいと思います。私は、質を考慮してこそ、ローテリーの将来の成長につながるものと考えておられます。

さきには、アジアはこのところ会員を出しているないこともあります。ですから、ミネーション委員会が私を推薦しましたところには、アジアの会員、特に日本の方々の期待が高まることと思います。ですから、職業と責任を持つてこの職に望み、貢献したいと感じております。



RIの運営にあたっては、私としては新しいプログラムをつくるうとは考えてはおりません。その理由は、新しい良いプログラムはもう既にいくつも実践されてきたからです。むしろこれまでに導入されたものをより良くすることに心がけたいと思います。今まで、新しい会員が出来るたびに多くのコラボーターをつくり、多くのガバナーや地区及びクラブに多くの仕事を譲ってきてきました。数年前には22のタスク・フォースがありました。そのために、ガバナーや地区やクラブの皆様がRIの仕事に翻弄されてしまい、かえってそれぞれの仕事の実践が難しくなっているように思われます。ですから新たなものを譲るではなく、既にあるプログラムを着実に実行してゆくことを望みます。

ここで、二つのことを強調したいと思いまます。一つ目は、新会員の獲得と現会員の

もう一つ申し上げたいのは、大半の方が忘れてしまっている理念、すなわちそれぞれの仕事を大切にするという第二モットーの「職業奉仕」の精神を思い出せといふことなのです。

「職業奉仕」の理念はローテリーにとつては大変重要です。ローテリーの存在は職業を通しての貢献、各自それが職種を代表してクラブに加盟しているわけですから、自分の専一の職業を通しての貢献、すなわち「職業奉仕」の理念を忘れないでほしいということです。自分の職業を全くずることが大切で、「He profits most who serves best」というのが、ローテリーの精神です。よって、貢献を通して職業を維持しながら、職業を通して貢献するのが大事であると考えられるのです。

この「職業奉仕」のモットーの復活を目指して、私は板橋理事事務所で開催する理事会と私は二人のアジア人として、「職業奉仕」のモットーを復活するべく、理事会では他の17名のメンバーを説得しようと日々努力しているのです。「職業奉仕」という、今は多くの方に忘れられたモットーの復活の重要性を説いてはいるのですが、我々のこの考えが他のメンバーにはなかなか理解してもらえないようです。従ってアジアの同胞として、板橋さんと共に協力して理事会説得にあたっている次第です。どうぞ皆さま、ここにRIの板橋理事事を紹介させていただきます。私は板橋理事の仕事を大変高く評価しており、彼の活躍に心より

感謝しております。

さらに強調したいのは「ボリオの接誠」です。1985年にこの接誠キャンベーンは始まりました。その当時、126ヶ国に40万人の患者がおりました。この接誠運動とは一人当たり8セントのワクチンを20億人の子供に提供するという計画で、すでに萬額の資金を費やしてきました。この接誠運動を2005年までに完成したいと考えています。

アジアの国でこの運動に積極的に参加しているのが、日本、台湾、韓国ですが、もつと広げてゆかなければなりません。資金の提供者はアメリカを筆頭に日本、韓国、台湾などから出ています。あなたの方の地区ではこれまでに1,200万ドル以上を提供してくれました。資金は他にはビル・ゲイツ財團、世界銀行、国連などから出ています。2003年6月のブリズベーン会議までに何とか目標を達成したいと思います。私たちが目指すのは一枚の紙、すなわちボリオを撲滅し、たという証明書を2005年までにWHOより獲得したいと思い開催しているのです。まだ、今年としては、8,000万ドル位のお金が必要ですが、これが最後のハードルとなっています。私が会長に就任して5~6ヶ月たちますが、まだ目標額の20%にしか届かない状況です。在任期間は残すところ6~7ヶ月しかありません。この目標が達成されない限り、世界の子供にワクチンを手えるという約束が守れないのです。私としては世界の子供にワクチンを与えることを目標に掲げていきたいと思います。



今朝、米山記念館で5~6歳（＊実際は小学生）の20~30人の子供に会いました。その中にボリオを患っている子はいませんでした。みんな幸せそうな笑顔が輝いていました。世界の子供がみんなこのようであ



田 さ よ う

つてほしいと切に願っております。皆さん方が何をなさりたいかわかりませんが、この運動の方法は上から降ろされるものではなく、草の根から積み上げてゆくもの、つまり皆さん方が権利・ラタクルのでなければならぬというのが、私の考え方です。子供たちの笑顔を、そして走る姿を見るまでこの運動を続けるいかなければなりません。それができなければ、せっかくの運動が失敗に帰すということになってしまいます。

ローダリーのテーマがどうして「慈愛の種を播こう」なのか。それは「人道的な奉仕」をしなければならないということです。どのような奉仕をしようと、愛、すなわち慈愛の心や誠実さ、それに高潔な態度をもつて望まなければ決して眞の奉仕とはいえないのです。

私は北米、南米、ヨーロッパ、ロシアと様々な国を旅してまいりました。そこで多くのローダリーアンに会う毎に、彼等に「慈愛の種」ということを語りてきました。慈りで頭と顔を合わせても絶対に解決は生まれません。この愛こそが大切なものと考えられます。

私のすぐ後の会長はナイジェリアの方、その次はアメリカのアラバマの方が会長になりますが、とてもよい方々なので、よい仕事をなさってくれると

思います。どこに行こうと何をしようと必ず心にとどめさせていただきたいのは、「慈愛の心をもつ」ということ。相手に対し真心を持ち続けることを皆さんにお願いしたいのです。

私はこれまでのお話を要約しますと、第一になぜ新しいプログラムを作らないかというと、すでに我々は十分いいものを持っているからであり、すでに持っているよいプログラムを続けてゆくということです。

第二に自分で目標を設定して自分のペースで実行してゆくことが大切なのです。

第三に「職業奉仕」の理想を強調したい。それには高い倫理、すなわち職業倫理を持つたたひただきたい。

四番目に現状の会員を維持するとともに、会員の質を考慮しながら新たな会員獲得に努めること。

五番目にボランティアの機関です。これらを考えいただきたい。そして基本となるのは「慈愛の種」であるということを胸にお守りにならいただきたいのです。「慈愛の種を播こう」ということを基本に置けば、いろいろ良いアイデアが生まれてくるでしょう。

謝辞

歓迎副委員長 内藤成樹

私たちは今、言い知れぬ感激でいっぱいです。それは尊敬するピチャイ・ラタクル会員のお姿お声を聞く近く接し得たという喜びと共に、私たちロータリアンが目指す奉仕という精神が、会長のいわわれている「Love」ということばの中に裏付けられているということを実感したからです。そしてこの素晴らしい感動を我々に与えてください

ました米山梅吉先生のお導き。そしてこの地に記念館の存在することの大きな意味をあらためて再認識する思いでございます。ピチャイ・ラタクル会長におかれましては、ハードスケジュールの中大変お疲れのことと思いますが、それにもおおいとい無く我々の心に明るい灯火とともにしてくれました。感謝いたします。一同を代表して厚く御礼申しあげます。またご参會のロータリアンの皆様方ありがとうございます。



次の機関会議へご案内

会場をつくした他の会員から贈られた

講師
日本大学国際問題研究所
海老原和也